

事業に関する中期的な計画に対する当期の実施状況（令和2年4月1日から令和7年3月31日までの間）

中期目標	中期計画
<p>【目次】 (前文) 大学の基本的な目標 I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標 (2) 教育の実施体制等に関する目標 (3) 学生への支援に関する目標 (4) 入学者選抜に関する目標 II 研究に関する目標 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標 (2) 研究実施体制等に関する目標 III 診療に関する目標 IV 社会との連携や社会貢献に関する目標 V 国際化に関する目標 VI-1 組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標 (1) 組織運営の改善に関する目標 (2) 事務等の効率化・合理化に関する目標 VI-2 外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標 VI-3 評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標 VI-4 施設設備の整備・活用等に関する目標 VI-5 法令遵守に関する目標</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための計画 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための計画 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための計画 (4) 入学者選抜に関する目標を達成するための計画 II 研究に関する目標を達成するための計画 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための計画 (2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための計画 III 診療に関する目標を達成するための計画 IV 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための計画 V 国際化に関する目標を達成するための計画 VI-1 組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための計画 (1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための計画 (2) 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための計画 VI-2 外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標を達成するための計画 VI-3 評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための計画 VI-4 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための計画 VI-5 法令遵守に関する目標を達成するための計画</p>

中期目標	中期計画
<p>(前文) 大学の基本的な目標 順天堂大学の基本的な目標</p> <p>本学は、学是「仁」、理念「不断前進」に則り、出身校、国籍、性による差別なく優秀な人材を求め活躍の機会を与えるという「三無主義」の学風を掲げ、6学部3大学院研究科6附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として「教育」「研究」「診療・実践」を柱に、グローバル社会における医療やスポーツ、人々の健康を支える人材の育成・輩出と国際レベルでの社会貢献に取り組む。</p> <p>これらを実現するために中期目標・中期計画において次の事項を重点目標とする。</p> <p>(教育) 確かな学問体系に立脚し、学際的に新たな学問領域を探索しながら、幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観、未来を切り拓く創造力、国際性と指導力を備え、生涯に亘り高い水準で能動的に学び続ける人材を育成する。特に、本学の掲げる理念・目的やビジョンを実現するため、教育の内部質保証システムを構築し、恒常的・継続的に教育の質の保証と向上に取り組む。</p> <p>(研究) 国内外から卓越した研究者が集い成長していくことのできる学術研究環境を拡充し、世界的水準での魅力ある研究や新しい学問分野・融合研究の発展及び創成を促進する。イノベーション創出を目指して、次世代に向けた研究を推進するとともに、企業・大学との寄付講座・共同研究講座の開設を促進し、研究成果、知的成果を広く社会に還元する。</p> <p>(診療) 医学部附属6病院合計で総病床数3,443床を有する日本最大規模の強固なネットワークを形成し、先進医療、地域医療、救急医療、周産期医療、高齢者医療、精神医療、がん治療、新規医薬品・医療材料・医療機器の開発等、国民の医療ニーズに幅広く対応する高い専門性を発展させつつ、総合的に秀でた医育機関として、病診連携・病病連携を強化し、国際レベルでの拠点病院としての機能を果たしていく。医療の更なる質的向上を達成し、患者中心の安心・安全な医療を充実させるととも</p>	

中期目標	中期計画
<p>に、臨床研究実施体制を強化し、医師主導治験や他施設との共同臨床研究を推進する。</p> <p>(社会貢献) 地域社会や産業界等との幅広い連携活動のもと、社会的な役割やニーズに対応した「教育」「研究」「診療・実践」を推進し、その成果を積極的に情報発信するとともに、社会・地域に還元する。</p> <p>(国際) 国際的な「教育」「研究」「診療・実践」のネットワークを拡充することにより、世界的研究・教育拠点としての機能を強化し、その発展をリードできる人材の育成を図るとともに、知的財産を社会に還元する。</p>	

I 教育

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標</p> <p>○教育課程、教育方針に関する基本方針</p> <p>【学士課程】</p> <p>1) ディプロマ・ポリシー等を踏まえ、学生がグローバルな視野のもと、自律的な学習能力及び実践力を有するように育成するため、専門的基礎知識と総合的判断力を有機的に養うことを可能とする教育内容及び方法を整備・改善し、学ぶ意欲を刺激する国際通用性の高い学士課程教育を実施する。</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための計画</p> <p>○教育課程、教育方針に関する基本計画</p> <p>【学士課程】</p> <p>1) 学部ごとに学士としての到達目標を明確にし、学生が学位取得に至るプロセスを自覚できる体系的なカリキュラムの充実を図る。</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>○教育課程、教育方針に関する実施状況</p> <p>【学士課程】</p> <p>(医) DPとカリキュラムとの関連性については、シラバス内に「医学部カリキュラムマップ」を掲載して確認できるようにしている。一方、授業科目毎のページには関連するDPを記載するべく検討を行っている。</p> <p>(スポーツ健康) 定員増及び学科再編に伴うカリキュラム改正を実施し、これまでの3学科による教育課程を基礎として更なる充実を図った。</p> <p>(医療看護) 看護学生が卒業時に身につける能力をディプロマ・ポリシーに5つ掲げ、それらを達成するために必要な能力を10分類、48項目のコンピテンシーとして設定している。</p> <p>(保健看護) 厚労省指定規則改正を機に、令和4(2022)年度から新しいカリキュラムを施行するため、カリキュラム委員会を中心に検討している。</p> <p>(国際教養) 授業科目に適切な番号を付し分類したナンバリングにより、学修の段階や順序等を表して教育課程の体系を学生へ明示した。シラバスにナンバリングを明示し「教育課程概要(授業科目一覧)」と照合して履修(授業科目選択)可能とな</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>2) 幅広い教養を涵養することを基本とし、その上に専門的能力を育成するために、人間性、社会性、国際性、専門性に配慮した教育内容を充実する。</p> <p>3) 自律的な学習能力及び実践力を育成するために、アクティブラーニングやICTの活用等による双方向型の教育方法及びインターンシップ等の体験型の教育方法を強化・充実する。</p>	<p>るよう実践している。</p> <p>(保健医療) 学部設置認可申請時に組まれた体系的なカリキュラムにより教育を実践し、学科ごとにコンピテンシーを設定している。</p> <p>(医) 「知性と教養、感性溢れる医師」を育成するための教育として授業科目「医療プロフェッショナリズム入門」「医療入門」「医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム」「医療体験実習」等の授業科目を実施している。</p> <p>(スポーツ健康) 定員増及び学科再編に伴い『一般教養科目』並びに『専門基礎科目』、『専門展開科目』及び『専門科目』に区分し、それぞれの教育が有機的に連動して段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるように編成した。</p> <p>(医療看護) ディプロマ・ポリシーを達成するために、授業科目を「人間と教養」「人間の健康」「看護の理論と方法」「医療看護の統合と発展」の4つの科目群に編成し、それぞれを学年進行とともに段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成している。</p> <p>(国際教養) 「グローバル市民の育成」という教育目標に沿ったカリキュラム構成により、国際的な教養に加え、グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービスの3領域からなる、文化を越えて活躍できる専門性を身に付けるカリキュラムを編成している。</p> <p>(保健医療) 人間や社会に対する基本的知識を修得できるよう、1年次に「基礎分野」科目を配置している。</p> <p>(医) 一方通行となりがちなオンデマンド動画配信による授業に双方向性を持たせるべく、学修管理システム manaba 上で質問の受付や質問に対する回答を掲載し、学生間で情報共有できるようにしている。</p> <p>(医療看護) 全開講科目の約6割でアクティブラーニングを取り入れている。令和2年度からオンラインによる双方向型の授業が開始されている。</p> <p>(保健看護) 自律的な学習能力及び実践力を育成するために、アクティブラーニングやICTの活用等による双方向型の教育方法を強化・充実している。</p> <p>(国際教養) オンライン授業においても、アクティブラーニングやクリッカー機能アプリを用いた双方向型の教育方法を実践している。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>4) 国際化を推進するために、TOEFL 評価による英語力の強化を図る。</p> <p>5) 学習の活性化を促進するために、教材、機材、教育環境等の整備、充実及び開発を図る。</p> <p>6) 学部等の教育目標の特性に応じ、履修状況、資格の取得状況</p>	<p>(保健医療) 全科目の3割にあたる授業でアクティブラーニングを実施している。</p> <p>(医) 1年生全員に年間2回 TOEFL ITP 学内受験を実施し、英語力の強化を図っている。6学部合同英語教育連絡協議会を年2回開催し、各学部における TOEFL 教育の特徴やスコア向上のための工夫について、情報交換している。</p> <p>(スポーツ健康) TOEFL 評価を活用した英語力強化を推進し、英語力の強化を図っている。今年度は受験者平均で21点の上昇となった。</p> <p>(医療看護) 1年生全員に年間2回 TOEFL 学内受験を実施し、英語力の強化を図っている。</p> <p>(保健看護) 国際化を推進するために、TOEFL 評価による英語力の強化を図っている。</p> <p>(国際教養) コロナ禍であるため、1年生は TOEFL iBT を6月と2月に実施し教育・学習効果を測った。2年生は TOEFL ITP を12月に実施、1年次からの成績の伸びを測った。</p> <p>(保健医療) 1年生を対象に、9月及び1月に TOEFL 試験を実施した。1月実施回は9月と比較して平均点が5点上昇し、学生の英語力向上につながった。</p> <p>(医) 講座別ではなく、臓器別・病理病態別の統合講義が開始されて以降、独自の資料集を充実させている。オンライン授業(オンデマンド)の充実を推進するため、専用の動画サーバーを整備している</p> <p>(スポーツ健康) 今年度も3回の教職員によるFDを実施し、教育手法の充実に向けて対応を進めた。</p> <p>(医療看護) 看護バーチャル・リアリティシステムやシミュレーショントレーニングシステム等の教材・機材を整備し学習の活性化を図っている。</p> <p>(保健看護) 学習の活性化を促進するために、継続的に視聴覚教材や機材の検証、AV機器、教育環境等の整備・充実を図っている。</p> <p>(国際教養) オンライン授業を推進するための機材、環境等の整備、充実を図っている。</p> <p>(保健医療) 国家試験への取組として、国家試験対策用ソフトの導入する方向で検討を開始した。</p> <p>(医) 標準修業年限内での卒業率(ストレート卒業率)は、令和</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>【大学院課程】</p> <p>2) 本学のディプロマ・ポリシー等を踏まえ、世界に通じる研究・開発能力を有する人材として、国際社会で力強く活躍できるように教育内容及び方法を整備・改善し、体系的な教育</p>	<p>及び卒業後の進路等の定量的・定性的指標において高い水準を維持する。</p> <p>7) 「教職課程センター」の機能の充実を図り、教職課程コアカリキュラムを活用した教職課程の質保証を踏まえた教員養成課程の拡充を目指す。</p> <p>【大学院課程】</p> <p>8) 大学院の各課程における到達目標に応じ、学位取得に至るプロセスを明確にした体系的なカリキュラムを充実する。また卓越した研究者が集い成長していくため、学術環境の拡充を</p>	<p>2年3月卒業生 95.3%、平成31年3月卒業生 93.0%、平成30年3月卒業生 97.5%である。医師国家試験合格率（既卒者含む）は、第114回（令和2年3月）99.2%、第113回（平成31年3月）98.4%、第112回（平成30年3月）96.9%である。ストレート卒業率、医師国家試験合格率ともに高い水準を維持している。</p> <p>（スポーツ健康）2020年度卒業生のうち、中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）239名、特別支援学校教諭一種免許状74名、養護教諭一種免許状7名、精神保健福祉士国家試験受験資格9名が免許状等を取得した。卒業後の進路では企業就職希望者221名中218名が内定取得、教員採用試験に50名が合格した。</p> <p>（医療看護）看護師、保健師、助産師の資格取得状況については、単位所得状況と国家試験受験申請も持って把握している。附属6病院への就職率約90%を維持している。国家試験合格率（令和元年度）は看護師98%、保健師98%、助産師100%と高水準である。</p> <p>（保健看護）国家試験WGを中心に学生への学習指導を強化し、保健師国家試験、看護師国家試験において高い合格率を維持している。</p> <p>（大学）教職課程センター運営委員会（3月12日）を開催した。教育職員免許法施行規則改正が令和3年4月に改正されるため、①全学的組織体制の充実（教職課程センターの実質化）、②教職課程の自己点検評価の義務化への対応方法を検証することとした。</p> <p>（スポーツ健康）教職委員会や進路相談室が中心となり、教員を目指す学生の対する支援を実施した。その結果、50名が現役で教員になることとなった。今後は教職課程センターとしての更なる機能の充実を図りたい。</p> <p>（国際教養）教職課程指導室を整備し、教職課程履修者の指導体制の充実を図っている。教員採用試験受験者5名・合格者5名と、前年度（2名受験2名合格）に続き、合格率100%を達成した。</p> <p>【大学院課程】</p> <p>（医学研究科）博士課程カリキュラムは、コアプログラム（基礎教育、実践教育、レクチャーシリーズ）、専門プログラム（専門コース、専門研究）にて構成しており、体系的なカリキュラ</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>を実施する。</p> <p>3) 本学の多様な学術的研究を背景とし、先端的な専門性の高い知識を修得でき、高度な専門的能力と独創的な研究能力を兼ね備えられるように専攻分野の特性に応じた教育成果の向上を図る。</p>	<p>図り、大学間連携を積極的に推進する。</p> <p>9) 創造性豊かな優れた研究・開発能力と高度な専門的知識・技能に加えて社会全体を俯瞰する広い視野を涵養するために、精深な理論教育及び実践教育を実施し、研究上の倫理教育の強化に向けて組織的に取り組む。</p> <p>10) 時代の動向と社会の要請に対応するために、国際的に通用する新たな学問領域を踏まえた学際的教育を実施する。</p>	<p>ムとなっている。修士課程カリキュラムは、基礎教育科目、専門教育科目、特別研究科目にて編成し、それぞれを段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成している。学位取得に至るプロセスはカリキュラム概略図としてシラバス内で明示している。</p> <p>(スポーツ健康科学研究科) 学生が能動的に学ぶことを重視した教育方法を実践するとともに、ディプロマ・ポリシーに示す高度な研究能力・実務能力を身に付けられるよう、課程毎に教育課程を編成して学修成果を適切に評価した。</p> <p>(医療看護学研究科) カリキュラムを共通科目、専門科目、演習・研究に分けて編成し、それぞれを段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成している。教育要項にディプロマ・ポリシーと各授業科目との関連を明示し、学位取得に至るプロセスを明確にしている。</p> <p>(医学研究科) 医学研究科における理論教育及び実践教育については、博士課程ではコアプログラム（基礎教育、実践教育、レクチャーシリーズ）、修士課程では基礎教育科目、専門教育科目にて実施している。研究上の倫理教育の強化のため、APRIN e-learning プログラムを導入しており、倫理審査申請にあたっては事前の受講を必須とする等、研究倫理に関する教育を推進している。</p> <p>(スポーツ健康科学研究科) 研究倫理教育の重要性に鑑み、全大学院生を対象に、研究倫理教育プログラム（独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の「研究倫理 e ラーニングコース」もしくは一般財団法人校正研究推進協会（APRIN）の「e ラーニングプログラム」のいずれか）の受講を義務付け、修了することを義務付けている。2020(令和2)年度とも、全大学院生が受講を完了した。</p> <p>(医療看護学研究科) 看護学研究方法論や看護倫理特論、看護理論特論、演習等において理論教育及び実践教育を実施している。APRIN e-learning プログラムを導入しており、倫理審査申請にあたっては事前の受講を必須とする等、研究倫理に関する教育を推進している。</p> <p>(医学研究科) 博士課程にて研究進捗状況の評価として実施される3年次ポスターセッションでは、ポスター・発表共に英語で実施し、学位論文は、査読のある国際的な学術誌に投稿・掲載される独創的研究に基づく著作（原著論文）としている</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>○教育の成果・効果の検証</p> <p>4) 教育課程の質保証の観点から多様な教育の成果・効果の検証を行う。</p>	<p>11) 教育目標の特性に応じ、学位取得状況及び修了後の進路等の定量的・定性的指標において高い水準を維持する。</p> <p>○教育の成果・効果の検証に関する計画</p> <p>12) 学生の理解度と自律的学習能力の向上という観点から、全学的な体制のもとで教育の達成状況を検証・評価する適切なシステムを構築する。</p> <p>13) PDCAサイクルに基づく教育の質向上を図るため、内部質</p>	<p>(医療看護学研究科) 国際保健論、医療英語、国際コミュニケーション等の科目を配置し、国際性を涵養する学際的教育を実施している。</p> <p>(医学研究科) 標準修業年限内での学位取得状況（早期修了含む）は、令和2年3月修了者（博士課程 87.9%、修士課程 89.7%）、平成31年3月修了者（博士課程 89.4%、修士課程 93.5%）、平成30年3月修了者（博士課程 82.7%、修士課程 100%）であり、高い水準を維持している。博士課程においては修了者の学位論文が査読のある学術雑誌に掲載受理されているかどうかを定期的に確認している。直近（令和2年12月）までの状況として、令和2年3月修了者 87/128名、平成31年3月修了者 96/135名、平成30年3月修了者 97/107名の学位論文が掲載受理されている。</p> <p>(スポーツ健康科学研究科) 学位取得状況及び修了後の進路等の定量的・定性的指標による評価を実施した。</p> <p>(医療看護学研究科) 修了時及び修了後の調査を行い、定量的・定性的指標による評価を行っている。令和2年度の専門看護師（CNS）認定試験においては令和元年度CNSコース修了者全7名が合格した。</p> <p>○教育の成果・効果の検証に関する実施状況</p> <p>(医) 博士課程における単位認定・進級判定のための資料として、到達目標の自己評価・教員による評価を実施し、単位認定・進級判定の審議に使用している。</p> <p>(医療看護) 学修成果の評価について、その目的や達成すべき質的水準及び具体的な評価の実施方法等について、アセスメント・ポリシーを定め、適切に評価を実施している。</p> <p>(保健看護) 新学期に外部テストを用いた基礎学力テストを全学年に実施し、学生の理解度を測り各学年における学習内容の達成状況を検証・評価し指導に活用している。</p> <p>(国際教養) 「学修・教育効果の把握・可視化」を重点的に、ディプロマ・ポリシーに対応するコンピテンシーの検証、アセスメントの方法等の検討を重ねている。</p> <p>(保健医療) カリキュラム評価委員会において、学生及び教員を対象としたカリキュラム評価アンケートをそれぞれ実施し、教育課程についての検証を行っている。</p> <p>(医) 授業評価アンケート結果・学生の意見をカリキュラム評価</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>○成績評価に関する基本方針</p> <p>5) 教育課程に基づく教育の成果について厳正・適正な成績評価を行う。</p>	<p>保証体制を整備し、授業アンケート、学生の意見や学修状況、学修成果の状況、卒業後の状況に関するデータを把握し、恒常的に教育改革の達成度の検証及び改善を行う。</p> <p>○成績評価に関する計画</p> <p>14) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）によるアセスメント・ポリシーに基づき、教育課程に係る教育成果について成績評価基準を定め、到達度に力点を置いた厳格な成績評価を実施する。</p> <p>15) 筆記試験による成績の他に実習・演習科目による成績を組み合わせ、学生の知識、思考力、技術、意欲等を多面的、総合的に評価する。</p>	<p>委員会に報告し、カリキュラム改革に活用している。カリキュラム評価委員会におけるカリキュラム点検を実施し、提言事項を大学院検討委員会にフィードバックしている。</p> <p>(医療看護) 毎授業において授業評価を行っているほか、学生生活実態調査、学生への意見聴取、コンピテンシーの到達度評価、卒業後アンケート調査等を行い、恒常的に教育改革の達成度の検証及び改善を行っている。</p> <p>(国際教養) 授業評価、学生生活実態調査、卒業時アンケート等を行い、その結果を関係委員会へフィードバックし、恒常的に教育改革の検証及び改善を行っている。</p> <p>(保健医療) 毎回の授業で授業評価アンケートを実施し、授業担当教員にフィードバックを行っている。授業評価アンケート結果は教務委員会で確認され、授業担当教員の指導のために活用している。</p> <p>○成績評価に関する実施状況</p> <p>(医) 各科目のシラバスに到達目標、成績評価方法、成績評価基準等を示している</p> <p>(スポーツ健康) 成績評価基準を学修要覧に明記しているほか、各科目のシラバスに到達目標、成績評価方法、成績評価基準等を示し、厳格な成績評価を実施した。</p> <p>(医療看護) 教育課程全体の成績評価基準を履修要項に明記しているほか、各科目のシラバスに到達目標、成績評価方法、成績評価基準等を示し、厳格な成績評価を実施している。</p> <p>(保健看護) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）によるアセスメント・ポリシーに基づき、到達度に力点を置いた厳格な成績評価を実施している。</p> <p>(国際教養) 教育課程に係る成績評価基準を「履修の手引き」に明記し、各授業科目のシラバスに学修の到達目標、成績評価方法・基準、ディプロマ・ポリシーとの関連を示し、厳格な成績評価を実施している。</p> <p>(保健医療) アセスメント・ポリシーに基づき、前期・後期それぞれで厳格な成績評価を行っている。</p> <p>(医) 講義と実習から構成される授業科目については、筆記試験の評価に実習等の評価も加味した多面的・総合的な評価を行っている</p> <p>(スポーツ健康) 筆記試験による成績の他に実習・演習科目による成績を組み合わせ、学生の知識、思考力、技術、意欲等を多</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>(2) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>6) 世界的研究・教育拠点にふさわしい教育を実施するために、教育組織及び実施体制を整備・強化するとともに、社会的要請等を考慮して適切な入学定員を設定し、国際標準化を視野に入れた教育体制・教育環境を整備充実させる。</p> <p>7) 学士課程の拡充を図るために新学部開設の構想について検討を進め実現を図る。</p>	<p>16) GPAによる成績に基づき学生の学習意欲の向上を図るとともに、適切な個別指導を行い、国際通用性の確保を図る。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための計画</p> <p>17) 幅広い教養教育から専門教育に繋がる充実した一貫性のある学士課程教育を実施するために、大学協議会をコアとして全学的な体制の整備・充実を図る。</p> <p>18) 教育組織の再編・強化を図るとともに、必要に応じて入学定員を見直す。学部においては、スポーツ健康科学部の更なる入学定員増を実施（600名へ増員）し、学科再編成等を行う。医療看護学部・保健看護学部についても入学定員増に取り組む。また大学院においては、医学研究科修士課程・博士</p>	<p>面的、総合的に評価した。</p> <p>(医療看護) 筆記試験による成績の他に実習・演習科目による成績を組み合わせ、学生の知識、思考力、技術、意欲等を多面的、総合的に評価している。</p> <p>(保健看護) 筆記試験の他にルーブリックを用いた評価を行っている。</p> <p>(国際教養) 筆記試験による成績の他、演習科目でのプレゼンテーション、ファシリテーションの実践、外国語科目でのコミュニケーション能力、ゼミナールでの専門生の追及・研究とその成果物（卒業論文）等を組み合わせ、多面的、総合的な評価を行っている。</p> <p>(保健医療) 実習・演習科目においては、ルーブリック等を用いて客観的指標に基づいて評価を行い、筆記試験だけでは評価が難しい技術・意欲等を多面的、総合的に評価している。</p> <p>(スポーツ健康) 学生の学修到達度についてGPA得点を判定基準の一つとして検証し、進級判定及び学生指導の基準として利用した。</p> <p>(医療看護) GPAを導入しており、進級判定、卒業認定、助産師課程選抜試験等における総合判定データの一つとして利用しているほか、アドバイザー教員を中心とした指導を行っている。</p> <p>(保健看護) GPAを進級・卒業判定の参考にするよう検討している。</p> <p>(国際教養) GPAを進級・卒業判定時の参考とし、成績不良学生の特別アドバイジングケアシステムにおける対象者判定の基準として利用している。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(大学) 大学協議会では、当年度に次年度教育課程の編成に関する全学的な方針を策定し、次年度にその方針に基づいた各学部・研究科の取組内容を検証し、教育課程の充実を図っている。</p> <p>(医) 近年、医学研究科への入学志願者、入学者が増加していることから、令和3年4月より医学研究科医科学専攻（修士課程）の入学定員増を実施する（40名→60名）。医学研究科では社会人入学者への配慮として、昼夜開講制にて授業を実施しているほか、オンデマンド動画配信による履修も可能としてい</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>○教育環境の整備</p> <p>8) 本学の理念・目的の実現のため教育設備を充実させるとともに、教育効果の検証を行い、より教育効果の高いカリキュラムを構築する。</p>	<p>課程、医療看護学研究科博士前期課程・後期課程の入学定員増に取り組む。医学研究科修士課程に社会の要請に応じたりカレントコースの開設を目指す。保健医療学部を基礎とする新研究科の開設を検討する。</p> <p>19) 令和4年度(2022年度)に浦安市日の出地区に医療科学部(仮称)を開設し、医学・医療の基本的素養を基に高度で専門的な知識を身につけ、確かな技術を修得し、高い実践力を備えた臨床検査技師及び臨床工学技士の育成を目指す。</p> <p>20) 令和5年度(2023年度)を目標として、AIに関する知識とスキルを身につけ、医療・スポーツをはじめ各種の場面で蓄積されたビッグデータを解析・分析し、課題解決策や新たな価値を創造できる人材の養成を目指して新学部開設の検討を進める。</p> <p>○教育環境の整備に関する計画</p> <p>21) 学生にとって学びやすい環境整備を図り、多様なメディアを活用した教育体制の充実、シミュレーション教育の充実を推進するとともに、カリキュラムの教育効果を検証し、教育効果の高いカリキュラムの構築を図る。また、グローバル化に通用するICTサービス等の機能強化・拡充を図り、ICTを活用したアクティブラーニング型の授業・自修支援及び教学システムを充実させ、教育環境の強化を図る。</p>	<p>る。</p> <p>(スポーツ健康) 令和2年3月に収容定員に係る学則変更認可申請書、令和2年4月に定員増と同時に行う学科再編(3学科から1学科6コース制)に伴う学科設置届出書を文部科学省に提出し、令和2年8月に認可を受けた。</p> <p>(医療看護) 令和4年4月から入学定員を200名から220名に増員することを計画している。</p> <p>(保健看護) 令和4(2022)年度から入学定員を120名から130名に増員することを計画している。</p> <p>(保健医療) 保健医療学部を基礎とする研究科の開設に向け、大学院設置検討委員会を設置し、検討を開始した。</p> <p>(法人) 令和4(2022)年4月医療科学部開設に向けて、本年3月文部科学省に定員増に伴う学則改正認可申請書を提出した。引き続き、学部設置届出書及び厚生労働省指定学校申請を行う予定。</p> <p>(法人) 令和5(2023)年4月データサイエンス系学部開設に向けて教員組織・教育課程編成の準備を進めており、令和4(2022)年3月文部科学省に学部設置の認可申請書を提出する予定。</p> <p>○教育環境の整備に関する実施状況</p> <p>(医) 従来、社会人学生を対象として医学研究科において実施していたオンデマンド動画配信による授業形態を医学部医学科においても導入した。</p> <p>(スポーツ健康) 定員増に伴う新講義棟建築により講義室等の教育環境を整備した。ICTを活用したアクティブラーニングの実施に向けて教育環境の強化を図った。</p> <p>(医療看護) 看護バーチャル・リアリティシステムやシミュレーショントレーニングシステム等の教材・機材を整備しているほか、令和2年度より多様なメディアによるオンライン・オンデマンド教育を導入した。</p> <p>(保健看護) 学生にとって学びやすい環境整備を図り、多様なメディアを活用した教育体制の充実、シミュレーション教育の充実を推進し、カリキュラムの教育効果を検証するためのアンケート調査を実施した。ICTを活用したアクティブラーニング型の授業・自修支援を行い、クラウド型学習支援システム</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>○教育の質の改善のためのシステム</p> <p>9) 世界的研究・教育拠点にふさわしい教育を実施するために、内部質保証体制を整備し、教育活動の点検・評価を行い、改善するシステムを構築する。</p>	<p>22) 電子ジャーナル・データベースの適切な選定・収集、順天堂大学学術情報リポジトリのコンテンツ登録・発信の推進、学術標本資料データベースの作成等により、学術メディアセンターにおける学術・情報資源を充実させる。</p> <p>○教育の質の改善のためのシステムに関する計画</p> <p>23) 各学部のカリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会の機能を充実させ、外部評価制度の導入を検討する。</p>	<p>manaba を活用することによりリテラシー向上を視野に入れ教育環境の強化を図っている。</p> <p>(国際教養) コロナ禍でのオンライン授業では遠隔システム導入により海外からの講義が実現した。対面授業では、遠隔システムにより1授業を複数教室への配信による教室の密をさけた講義が可能となった。ライブ授業の他、オンデマンド動画配信による授業形態も導入し、教学システム Juntendo Passport や Google Classroom を用いて動画配信、授業資料配信を行った。</p> <p>(保健医療) Juntendo Passport や Google Classroom 等を用いて資料配信や授業動画の公開を行う等、学生の自修支援を行っている。Juntendo Passport のアップデートも検討しており、LMS 機能の更なる強化を計画している。</p> <p>(大学) 電子ジャーナルやデータベースの契約は、講座・教員の購読希望、学術的な価値、購読費用を考慮したうえで選定して、各キャンパス学術メディアセンター運営委員会の審議を経て契約を行った。令和2(2020)年8月に「順天堂大学オープンアクセス方針」を制定し、順天堂大学学術リポジトリのコンテンツとして、新たに研究論文を掲載して、学術情報の発信を行った。</p> <p>(保健看護) 電子ジャーナル・データベースの適切な選定・収集を行った。</p> <p>○教育の質の改善のためのシステムに関する実施状況</p> <p>(医) カリキュラム委員会は毎月1回の定例開催、カリキュラム評価委員会は年度に1回開催している。</p> <p>(スポーツ健康) カリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会を開催した。今後は外部評価制度の導入を検討する。</p> <p>(医療看護) 毎月定例でカリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会を開催しており、令和元年度に実施した外部評価について、今後継続実施を検討する。</p> <p>(保健看護) カリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会において継続してカリキュラムの検証を行っている。</p> <p>(国際教養) カリキュラム委員会を毎月開催し、「学修・教育効果の把握・可視化」を重点的に、ディプロマ・ポリシーに対応するコンピテンシーの検証、アセスメントの方法等の検討を重ねている。</p> <p>(保健医療) カリキュラム委員会及びカリキュラム評価委員会を毎月開催し、教育内容の充実に向けて検討している。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>10) 教員の教育能力の向上及び教育の質の改善と向上を図るためファカルティ・ディベロップメント（FD）を継続的に実施し、教育活動を点検・評価するとともに教育改善に取り組む。</p>	<p>24) 卒業生に対し卒後の長期フォローアップを実施し、その結果をカリキュラム改革の検討の仕組みに盛り込む方策を検討する。</p> <p>25) 国際通用性を備えた教育活動を担う教員の教育力向上を目指し、学生による授業評価等を踏まえ、FDを継続的に取り組むとともに、各学部ファカルティ・ディベロップメント推進委員会において、FDの分析とFDの在り方を検討し、PDCAサイクルを更に機能させる。</p>	<p>(医) 卒業生に対してカリキュラムアンケートを実施し、結果をカリキュラム委員会にフィードバックし、改善の検討を行っている。</p> <p>(スポーツ健康) 卒業生へのアンケートを実施する体制の整備を進めており、今後はその結果をカリキュラム改善に生かしたい。</p> <p>(医療看護) 卒業生へのアンケートを実施しており、その結果に基づきカリキュラム評価委員会で検討しているほか、卒業生の意見を在學生に開示した。</p> <p>(国際教養) 就職・キャリア支援部門で卒業生の組織化の検討を進めており、卒後の就労状況の把握とフォロー体制の充実を図る。「ホームカミングデー」を企画し卒業生と在學生の交流による就職情報提供の他、学部カリキュラムへの提言等採り入れるべく検討している。</p> <p>(保健看護) 卒業生に対し卒後の長期フォローアップを実施し、その結果をカリキュラム改革の検討の仕組みに盛り込むため、実施に向けた準備を進めている。</p> <p>(医) FD（成田ワークショップ）に学部学生、大学院生、初期臨床研修医を参画させ、学生等の意見をカリキュラム改革に反映させる取組を実施している。FDの分析とFDの在り方の検討については、今後、FD委員会で検討する。</p> <p>(スポーツ健康) 今年度は、学生による授業評価等を踏まえたFDを3回実施し、FDの分析とFDの在り方を検討した。PDCAサイクルを更に機能させたい。</p> <p>(医療看護) FD講演会を開催し、参加者アンケートに基づきFD委員会において検証を行っている。</p> <p>(保健看護) 学生による授業評価に基づくリフレクションを行っている。FD委員会を中心として定期的に情報共有しPDCAサイクルを構築している。</p> <p>(国際教養) コロナ禍でのオンライン授業を成功させるため、オンラインツール操作方法のFDを開催し、教員タスクフォースを作り、WEB上で教員間の情報公開・情報交換が可能な仕組みを構築した。</p> <p>対面授業とオンライン授業を並行するハイブリッド型授業による学部運営、学生教育の在り方をディスカッションするFDを開催し、新たな教育方法の構築に努めている。</p> <p>(保健医療) 毎年開催する教員FD研修会に専任教員全員が参加し、教員の資質向上のための取組について検討を行っている。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>(3) 学生への支援に関する目標</p> <p>○学生の学習支援</p> <p>11) 世界的研究・教育拠点にふさわしい教育を実施するために、学生のニーズに応じた学習支援や生活支援のための相談・助言等の体制を拡充する。</p> <p>12) 学生のキャリア教育を充実させ、学生の多様なキャリアパス</p>	<p>26) 教育の状況及び教育の成果に関する定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等を改善する。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための計画</p> <p>○学生の学習支援に関する計画</p> <p>27) 学生の自律的学習や課外活動が円滑に行われるために、環境作りや支援体制を整備・充実する。</p> <p>28) 生涯を通じた持続的な自己開発力を自ら発揮できるように、</p>	<p>(医) 定期試験、卒業試験、実習評価のほか、授業評価アンケート、学生生活実態調査、卒業生に対するコンピテンシーの到達度の自己評価、カリキュラムアンケート調査等を行っており、それらの定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。</p> <p>(医療看護) 定期試験、卒業試験、実習評価のほか、授業評価、学生生活実態調査、学生への意見聴取、コンピテンシーの到達度評価、卒業後アンケート調査等を行っており、それらの定量的・定性的な分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。</p> <p>(国際教養) 定期試験、授業評価、学生生活実態調査、卒業時アンケート、英語外部試験等により、これらの分析を継続的に行い、教育内容・方法等の改善を図っている。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>○学生の学習支援に関する実施状況</p> <p>(大学) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う次の支援措置を実施した。①学費延納措置、②各種修学支援制度や奨学金の申請手続きの支援、③オンライン授業受講のための通信環境のサポートとして通信機器の貸与。</p> <p>(医) 教務委員会、カリキュラム委員会、学生部委員会が連携して対応している。</p> <p>(スポーツ健康) 学生部委員会が中心となり、学生の課外活動等が円滑に行われるための環境整備や支援について検討が行われた。</p> <p>(医療看護) 教務委員会、学生部委員会で取組んでいる。体育館、テニスコートの予約は本郷・お茶の水キャンパスと連携している。</p> <p>(保健看護) 教務委員会・学生部委員会を中心として学生の自律的学習や課外活動が円滑に行われるために、環境作りや支援体制を整備・充実を図っている。</p> <p>(国際教養) 学生が自宅等でオンライン授業を受講するにあたり、パソコン、ネットワーク環境が整備されていない学生に対し、ノートPCの貸出し、Wi-Fi ルータ貸出し（レンタル費用の半額補助）等の支援を行っている。</p> <p>(保健医療) 学生部委員会を中心に学生生活全般の支援を行っている。</p> <p>(医) 修学年次に応じて実施される一般教育（1年次）、基礎医</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>に応じた進路支援機能を強化することにより、学生の進路に係る不安の解消を図るとともに、多様な人材を社会の各方面に輩出する。</p> <p>○学生の生活支援 13) 学生が充実した学生生活を送るための生活支援・心のケア、障がい学生支援を充実させる。</p>	<p>修学年次に応じたキャリア形成支援を実施し、インターンシップや学生の職業意識啓発のためのセミナー等の内容の充実を図る。</p> <p>○学生の生活支援に関する計画 29) 利用者である学生の視点に立って、学生生活・健康相談体制、就職支援体制、ボランティア活動支援体制等の充実・強化を図る。</p>	<p>学（1～3年次）、臨床医学（3～4年次）、臨床実習（4～6年次）のカリキュラムを通じて、段階的なキャリア形成支援が実施されている。6年次には将来の臨床研修先や研究先となる機関を決定する上で重要となる学生インターンシップ実習を実施している。</p> <p>（スポーツ健康）必修科目である「キャリアデザイン」を中心に早期から自身の将来について考える機会を設け、幅広い職業観を全員が形成できるよう働きかけた。学生の職業意識啓発のためのセミナー等を多数開催した。</p> <p>（医療看護）3年次に就職活動スタートアップセミナーや本学附属病院の就職担当者による学部内の説明会・相談会を開催している。</p> <p>（国際教養）コロナ禍であるため就職支援面談は、対面以外にオンラインツールを積極的に活用している。コロナ禍における企業側の採用方針の転換、その渦中での就職活動は学生にとって不安材料が多く、その対応として4月から2月までに計41回の就職セミナーを実施している。3月の春季休業中も、3年生向けにセミナーを積極的に開催する。9月にはキャリア教育担当の特任准教授を採用し、キャリア支援の強化を図った。多職種・業界へ就職する本学部の特性を踏まえ、学生が自ら学びをデザインし、将来に備えて自律性を高めることをテーマにした検討を継続しており、各授業科目とコンピテンシーとの対応をシラバスに載せることとした。</p> <p>（保健医療）就職活動支援のための取組として、外部業者によるマナー講座を実施し、社会人になるための基礎を学ぶ機会を提供した。</p> <p>○学生の生活支援に関する実施状況 （医）学生部委員会にて学生生活支援、安全衛生管理室にて健康相談、学生相談室にてプライベートな悩みについての支援を行っている。各種団体・自治体からの要請については、社会連携推進室にて対応している。</p> <p>（スポーツ健康）さくらキャンパス学生課や就職課が中心となり、学生への相談体制や就職支援体制を構築した。</p> <p>（医療看護）学生部委員会において、学生生活・健康相談、就職支援を行っている。ボランティア活動については、既存のボランティアサークルに対しては学生部委員会、各種団体・自治体からの要請については、社会連携推進室で対応している。</p> <p>（保健看護）学生部委員会を中心に学生の生活支援を進めてい</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>(4) 入学者選抜に関する目標</p> <p>14) アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜を行い、深い知識と高度な技術、幅広い教養と豊かな感性を兼備え、国際感覚に優れた教育者・職業人となるに相応しい人材を受け入れる。</p>	<p>30) 障がいを持つ学生が必要とする支援ニーズを把握し、支援体制の拡充を図るとともに、性的少数者に配慮した環境の整備や女子学生のニーズに応じた支援体制の拡充を図る。</p> <p>(4) 入学者選抜に関する目標を達成するための計画</p> <p>31) アドミッション・ポリシーを踏まえ、本学への入学を希望する優秀な入学志願者の確保を目指し、従来の入試選抜方法に加え、国際バカロレア、TOEFL等の外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接等により、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜する。各種入試説明会、オープンキャンパス、大学案内冊子等を通じて、本学の理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を多様な手段を用いて展開し、効果的な入試戦略広報を行う。</p>	<p>る。</p> <p>(国際教養) 「学生相談室」を開設し、カウンセラー(臨床心理士・公認心理師)が学生の相談にあっている。</p> <p>(保健医療) 学生部委員会を中心に、学生からの相談に応じている。本郷・お茶の水キャンパスの相談窓口として、学生相談室の開室状況等も適宜アナウンスしている。</p> <p>(医) 学部特性上、障がいを持つ学生は非常に少ないが、学内に障害者用トイレやエレベーター、スロープを整備している。支援が必要な学生が発生した際は学生部委員会で対応する。</p> <p>(スポーツ健康) 全学的に「障がいのある学生の支援に関する基本方針」が制定され、ニーズに応じた支援体制の充実が図られた。</p> <p>(医療看護) 学部特性上、障がいを持つ学生はいないが、学内に障害者用トイレやエレベーター、スロープを整備している。支援が必要な学生が発生した際は学生部委員会で対応する。</p> <p>(国際教養) 設備面では、バリアフリー対応の第3教育棟が竣工した。今年度入学した脳出血後遺症による電動車椅子を使用している学生のニーズに応えるよう、本人、保護者、担任教員、事務室と連携を密にしている。対面授業日には、一時的に休憩できるスペースを確保した。履修科目担当教員に対しては、授業内での提出物、課題・レポート提出期限等の配慮を求めている。</p> <p>(4) 入学者選抜に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(大学) 受験生への情報発信として、各学部でホームページの充実を図っている。一般選抜において共通化に取組み、スポーツ健康科学部では一般選抜を2回実施し、受験機会の拡充を図り、より多くの学生が受験できるようにした。</p> <p>(医) 国際性・多様性を重視した複数の入試選抜方法(国際バカロレア選抜、帰国生選抜、外国人選抜、英語外部試験スコアを用いた選抜方式)を実施している。面接試験においては、願書に記載したTOEFL等の外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験を証明する資料を持参させ、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜している。各種入試説明会、オープンキャンパス、大学案内冊子等を通じて、本学の理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を多様な手段を用いて展開している。</p> <p>(スポーツ健康) 定員増及び学科再編に伴い、アドミッション・</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>32) アドミッションセンター（H28 設置）を中心に一般入試及び各学部の多様な選抜試験により入学した学生の入学後の修学状況や学業成績、大学院への進学状況等の追跡調査を実施するとともに、求める人物像に適った学生が入学しているか検証を行う。これを踏まえて本学における入試制度の改革等について検討し、改善を行う。</p>	<p>ポリシーを踏まえて、本学部への入学を希望する優秀な入学希望者の確保を目指し、外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接等により、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を選抜する体制を整えた。</p> <p>(医療看護) 複数の入試選抜方法を実施しており、国際バカロレア、TOEFL 等の外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接等により、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜している。各種入試説明会、オープンキャンパス、大学案内冊子等を通じて、本学の理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を多様な手段を用いて展開している。</p> <p>(保健看護) アドミッション・ポリシーを踏まえ、本学への入学を希望する優秀な入学志願者の確保を目指し、帰国生選抜入試では国際バカロレア、TOEFL 等の外部試験・資格、能動的・主体的に取り組んだ活動経験、面接等により、多様な能力や経歴を持つ、志の高い優秀な人材を国内外から選抜する。各種入試説明会、オープンキャンパス、大学案内冊子等を通じて、本学の理念及びアドミッション・ポリシーの浸透を多様な手段を用いて展開し、効果的な入試戦略広報を継続している。</p> <p>(国際教養) 多文化多言語共生社会の構築に貢献できるグローバル市民の育成を教育目標に掲げ、アドミッション・ポリシーで「求める学生像」を示し、総合型選抜においては国際バカロレア選抜、海外帰国生選抜、外国人特別選抜の各選抜方式を設けた。総合型選抜、学校推薦型選抜においては外部試験利用選抜の方式を設け、主に英語、スペイン語、フランス語、中国語の検定スコアの提出と、同言語による面接試験を実施している。</p> <p>(保健医療) アドミッション・ポリシーに基づき、多様な学生を受け入れるため、総合型選抜、特別選抜（帰国生）を実施した。</p> <p>(大学) 学部及び研究科に入試検証委員会を設置し、入試終了後の次年度早期に入学者選抜の公正性、適切性を検証した。</p>

II 研究

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>II 研究に関する目標 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標</p> <p>15) 世界的研究・教育拠点にふさわしい世界をリードする学術研究環境を創出する。</p> <p>16) 世界的研究・教育拠点として、国際社会・国・地域における本学の役割を認識し、国内外の企業や研究機関との連携を強化するとともに研究を促進し、その成果を広く社会に還元する。</p>	<p>II 研究に関する目標を達成するための計画 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための計画</p> <p>33) 基盤研究の充実を図るために、健康総合大学としての特徴を活かした独創的・先端的な研究成果を上げるとともに、基礎研究及び異分野融合研究の推進と新たな研究フロンティアの開拓を目指す。</p> <p>34) 本学の研究力の強化を図るために、外部の専門機関等を活用し、外部資金の獲得額等を含むデータベース分析及び客観的評価指標（論文数、Top10%補正論文数等論文の質・量等の評価指標、外国人研究者の招聘数などのグローバル化指標等）を用いたIR（Institutional Research）による研究水準評価を実施する。</p> <p>35) 国際共同研究の推進を図るために、海外研究機関との研究ネットワークを活用し、大学間の連携活動を強化する。その成果として国際共著論文数の増加を図る。</p> <p>36) 令和4年度を目処として国外向けの英語版情報発信サイトを拡充する。</p> <p>37) 産業界・行政・研究機関等と連携した研究プロジェクトを国内外や地域横断的に企画推進するとともに、研究成果について</p>	<p>II 研究に関する目標を達成するための実施状況 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(大学) 本学の資源を有効活用し、部門横断的な研究の推進を図るために、健康総合科学先端研究機構を整備し、スポーツ領域の教育・研究・産学連携の推進と強化のため、学内スポーツ系部門横断型プロジェクト推進等の基盤拡充を図るためにスポーツ健康医科学推進機構の設置を令和3年3月の理事会にて承認を得た。</p> <p>(保健看護) 医学部、スポーツ健康科学部等、他学部との共同研究を推進している。フィンランドのユヴァスキュラ応用科学大学と共同研究を継続している。</p> <p>(保健医療) 令和元(2019)年11月に開設した保健医療学部共同研究講座「デジタルヘルス・遠隔医療研究開発講座」において、循環器疾患患者の健康寿命延伸に向けた研究を実施している。</p> <p>(大学) 本学の研究基盤である大学院附置研究センターの研究力を図るために、平成27(2015)年、外部の専門機関により論文業績から検証を行った。令和2(2020)年、5年経過したことから附置研究センターの研究力について各指標（論文数・被引用数・TOP10%論文・TOP1%論文・国際共著論文・学外共著・学内共著・筆頭著者論文・責任著者論文）から検証を行った。検証結果については、精査し、附置研究センターの研究力強化のために情報を共有する。</p> <p>(大学) 外部の専門機関により、研究者の国際共同研究への意識調査を行った。特筆すべき研究成果は、積極的にプレスリリースをおこなった。成果内容は、国際共著論文への発展を想定し、国内外の同分野・領域の研究者（1件1万人程度）へ英文化し、メール配信を行った。</p> <p>(大学) 医学系講座・研究室の取組を「研究紹介」として和文・英文で作成して研究業績と共にホームページで公開した</p> <p>(大学) 産学連携の推進を想定し、医学系講座・研究室の取組を「研究紹介」として和文・英文で作成し、研究業績と共にホー</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>(2) 研究実施体制等に関する目標</p> <p>17) 世界的研究・教育拠点にふさわしい学術研究活動を促進するための研究体制を再編・強化する。</p> <p>○研究者等の配置</p> <p>18) 国際的に最高水準の研究を展開するために研究者等の適正配置を進める。</p> <p>○研究環境の整備</p>	<p>てホームページをはじめとする各種のメディアを通して積極的に発信し、産業創出の牽引を図る。</p> <p>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための計画</p> <p>38) 研究科においては、学問分野をリードするとともに、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応できる研究体制を構築する。大学院附置研究施設（研究センター・研究所）は、先端的かつ学際的な異分野融合型の研究を推進し、社会の変化に柔軟に対応できるような研究体制を目指してより一層の強化を図る。また本学ブランド研究の推進を図るために学長のリーダーシップのもとに部門横断型プロジェクト研究を立ち上げ、事業支援組織の「健康総合科学先端研究機構」（平成 29 年度整備）を研究拠点として全学的なプロジェクト研究の推進を図る。</p> <p>39) 産業界・行政・研究機関等との共同研究グループを容易に構築できるように、健康総合科学先端研究機構（私立大学研究ブランディング事業の選定に伴い整備）をコアに、部門横断型プロジェクトを構築し、医工連携などの異分野交流の場の拡大と有効化を図り、リサーチアドミニストレーター（以下「URA」という。）による研究支援を推進する。</p> <p>○研究者等の配置に関する計画</p> <p>40) 学術研究活動の高度化を促進するために、戦略的見地に立った公正で透明性の高い人事を遂行し、優秀な研究者を確保する。本学の学風「三無主義」に基づき、出身校、国籍、性による差別なく優秀な人材について既に定めている割合に基づき積極的に登用する。</p> <p>男女共同参画推進に関する研修・フォーラムの開催や研究支援員等の配置の補充、質の確保及びワーキングシェアの導入によって研究と出産・子育て・介護等のライフイベントとのバランスを配慮した女性研究者が活躍できる環境作りを行い、女性研究者比率 30%以上の達成を目指す。</p> <p>本学の研究基盤を支える大学院附置研究施設の研究力を強化するために、特に優秀な若手研究者を学長裁量により特任助教で任用する「次世代若手研究者育成プログラム」の継続実施を目指す。</p> <p>○研究環境の整備に関する計画</p>	<p>ムページで公開した</p> <p>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(大学) 本学の研究基盤である附置研究センターを拡充するために大学院医学研究科に令和 3(2021)年 1 月「ジェロントロジー研究センター」を整備し、健康寿命延伸に向けた取組の強化を組織的にスタートした。令和 2(2020)年度、健康総合科学先端研究機構では、医学・スポーツ・臨床研究領域のブランディングプロジェクト研究として 9 件を選定し、順天堂ブランドのプロジェクト研究として組織的に支援した。</p> <p>(大学) 健康総合科学先端研究機構が整備されたことで、文部科学省から選定を受けている COI プロジェクト事業（産学連携プロジェクト）、連携大学・企業と URA を中心に推進され、コロナ禍へ対応した新たなプロジェクトが創設され、社会実装化に向けた検証を共同研究契約の締結に伴い行った。</p> <p>○研究者等の配置に関する実施状況</p> <p>(大学) 研究活動の高度化を図るために共同研究講座等を積極的設置し、優秀な人材を学内外から特任教員等で積極的に登用した。これまで臨床系の女性研究者の上位職者割合を高めるために 10 名の助教を特任准教授へ登用し、教育・研究基盤の強化と共にキャリア形成の実現を図った。全学の助教以上の女性研究者比率は約 30%、年度内採用研究者の女性研究者の比率は約 39.6% (R2) と約 4 割に近い数字となっている。</p> <p>(保健看護) 教員選考においては常に公正・透明性の高い人事を行う。本学部は女性教員の比率が高いため、ワークライフバランスに配慮し、教育研究が継続できるよう環境整備に取り組んでいる。</p> <p>○研究環境の整備に関する実施状況</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>19) 研究リソースの集約化・一元管理に取り組み、研究機器等の学内外における共用化を進め、計画的な整備や更新、安定的な維持管理を行うとともに様々な研究分野の研究者の相互交流による研究水準の向上を図り研究力強化を進める。</p> <p>○研究者支援</p> <p>20) 世界的研究・教育拠点にふさわしい学術研究活動を行うために必要な支援体制を整備する。</p>	<p>41) 研究施設・設備・機器等の共同利用化を推進するために現行の研究基盤センターを基礎・臨床分野の拡充のために再整備を検討し、最先端の研究を実施する体制と機能の強化を図る。</p> <p>42) 革新的医療技術開発センターの設置に伴い、産学による「組織対組織」の大型の共同研究を推進するマネジメント体制が整備されたことを受け、オープンイノベーション推進のためのオープンイノベーションプログラム「GAUDI (Global Alliance Under the Dynamic Innovation)」を積極的に展開し、附属6病院の臨床力を活用し、新たな医療技術の早期実用化を目指す。</p> <p>○研究者支援に関する計画</p> <p>43) 基盤的研究環境の維持発展や先端的、独創的、学際的研究の推進に向けて、URAによる研究支援体制の一層強化・拡充を図るため、中長期的にURA人材を確保・育成を図る。</p> <p>44) 優れた若手研究者・女性研究者、外国人研究者等のワークライフバランスを調整し、その能力を発揮させるために、URAを配置した研究戦略推進支援センターの研究支援体制の強化を図る。</p> <p>45) 研究の質の向上を図り、優れた研究者の養成及び活躍を促進するために、公正な評価に基づき、能力や業績に報いる制度を整備する。また研究業績の全学統一管理を図るために研究業績共通管理ソフトEndNoteをライセンス導入し研究業績管理基盤整備の実現を図る。</p>	<p>(大学) 大型研究機器の共同利用化を推進するため内閣府ムーンショット事業を利活用し、大型機器の学内整備と共同利用に向けた連携・支援体制を図るために学外機関との調整中。次年度の整備完了を目指す。</p> <p>(大学) 附属6病院の臨床力を利活用し、臨床研究の推進を図るために、GAUDIプロジェクトを活用しオープンイノベーションの推進を図るために企業の積極的な参画の推進を図った。</p> <p>○研究者支援に関する実施状況</p> <p>(大学) 研究支援基盤の拡充を図るために、平成24(2012)年2名のURAによる研究支援体制から、2020(令和2)年度現在6名のURAを配置して先端的、独創的、学際的研究の推進に向けた取組をしている。</p> <p>(保健看護) 研究と研究者の活躍を活性化するため、研究戦略推進センターとの連携を図るとともに、URAの積極的な活用を推進し、研究支援体制を強化している。</p> <p>(大学) 優れた若手研究者・女性研究者、外国人研究者等の研究活動と生活の調和を図るために、関連部署(男女共同参画推進室他)と連携し、URAが研究諸活動の支援(研究計画のレビュー等)を行い研究者の研究推進と強化支援を行った。</p> <p>(大学) 研究業績の全学統一管理を図るために文献管理ソフトEndNoteをライセンス導入し、研究業績管理の共通化をはかるために、利用者講習会の開催を行った。</p>

Ⅲ 診療

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>Ⅲ 診療に関する目標</p> <p>21) 大学病院としての医療の質の向上を図り、高度・先進的な医</p>	<p>Ⅲ 診療に関する目標を達成するための計画</p> <p>46) 医療の質を向上させ、診療体制、医療安全管理体制及び院内</p>	<p>Ⅲ 診療に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(医院) コロナ禍での医療の質と安全確保のために医療安全や感</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
療を提供する。	感染管理体制の強化を図る。	<p>染対策等の主要会議は対面と web を併用したハイブリッド開催で継続実施し、全職員へのメール配信等により情報共有に努めている。</p> <p>(静岡) ICT (感染制御チーム) ・AST (抗菌薬適正使用支援チーム) 活動、各種医療関連感染サーベイランス、地域連携相互ラウンド、感染予防指導等を実施した。</p> <p>(浦安) COVID-19 を中心とした感染対策の強化。高難度・ロボット支援手術の拡大。専門医療・各センターの充実。医療従事者の研修参加率のアップ。</p> <p>(越谷) 精神医療を中心とした埼玉県東部地域の中核病院として、専門性の高い精神医療 (修正型電気けいれん療法、難治性統合失調症薬物療法等) を提供し、周辺病院との医療連携を推進した。膠原病やパーキンソン病等の神経難病についても、専門医による高度な医療を提供し、関連病院との医療連携を進めている。</p> <p>(高齢者) コロナ禍で講演会、研修会が開催できないため e-ラーニングを導入して受講の必須化を図った。</p> <p>(練馬) 高度・先進的医療として低侵襲ロボット支援(ダヴィンチ)手術を導入した。ICTの更なる強化を図るため、医療情報システム更新計画に沿って、各情報システムの機能・効率性・費用対効果等の評価を行い、システム選定を行った。(令和3(2021)年度更新を予定)</p> <p>○新型コロナウイルス感染症への対応</p> <p>(医院) 一般患者の動線と滞在エリアの完全分離を図っている。一般患者は1号館、COVID陽性及び疑い患者はB棟と建物ごと分離している。患者の出入口は1号館正面玄関一か所にしてサーマルカメラを設置し、発熱患者のトリアージを実施している。令和2年4月よりB棟地上階に「発熱外来」を設置、文京区の要請によるPCRセンターとしても機能させ地域への貢献を果たしている。予定入院患者について入院前PCR検査を全件実施、緊急入院等迅速に対応を要する患者用にPOCT検査を導入し、院内感染防止に最大限の対策を講じている。外来診療においては、オンライン診療の導入、あと払いクレジットサービスと薬剤配送サービスの連動、ウォークスルー検査等を導入して混雑(密)の緩和に努めた。入院診療においては、面会制限の不満を少しでも緩和するためにiPadを利用しての面会を導入した。特定機能病院としての責務を果たすために、東京都の要請に応じて入院重点医療機関の登録を行い、重症患者用14</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
		<p>床、中等症患者用 26 床、計 40 床を COVID 専用病床として運用している。新型コロナウイルスのワクチン基本型接種施設として、自院の医療従事者に対し、本年 3 月より先行接種を開始し完了。</p> <p>(静岡) 非接触で一度に多人数の体表面温度を計測できるサーマルカメラを病院入口に設置した。発熱患者の診察及び待機用テントを、令和 2 年 12 月プレハブに変更して設置しました。外気温度が低下する中、気温を気にせず診察を行なう事が出来るようになった。令和 2 年 9 月、2C 病棟の一部を改修すると共に同エリア内の給排気能力調整を行ない、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れる事の出来る病棟を開設した。その後 11 月より陽性患者の受入に伴い同病棟の運用を開始した。新型コロナウイルス感染症有無の判別を行えるフルオートメーションの検査システムを導入しました。多検体を自動処理できるようになり、検査の効率化、迅速化が図れると共に、検査を行う職員の安全性も確保した。新型コロナウイルスのワクチン基本型接種施設として、当院の医療従事者に対し令和 3 年 3 月 8 日から先行接種を開始した。令和 3 年 4 月末までに全教職員が 2 回目の接種終了の予定。今後、地域の医療従事者をはじめ高齢者に対し順次接種を行っていく予定。</p> <p>(浦安) 新型コロナウイルス患者の受け入れは、2 月頃より救命救急センターへの搬送患者に感染患者が見られたことより 4 月 7 日に新型コロナウイルス対策本部を立ち上げ教職員の健康管理のルールを制定し、感染防護具の資材供給の安定化を図った。患者数の増加に伴い 7C 個室病棟 (27 床) を隔離専用病棟として運用開始した。救命救急センター病棟の個室を重症患者病棟 (5 床) として千葉県の指定重点病院となった。救命救急センター個室は、陰圧室に改修する工事を行った。今回の工事で陰圧室は 5 室となり、新型コロナウイルス感染症だけでなく、空気感染を起こす多様な感染症疾患にも対応可能となった。5 月より発熱患者外来も一般の患者と異なる動線を確認し、PCR 検査を院内で実施するとともに免疫発光測定装置を導入し、24 時間体制で発熱している患者に対して、結果報告まで最長 1 時間以内で新型コロナウイルスとインフルエンザの抗原定量検査を同時に 1 本の鼻咽頭スワブで行うことが可能になった。3 月よりは、浦安市の新型コロナワクチン接種の基幹病院として、医療従事者への摂取を行い集団免疫獲得のため今後浦安市民への摂取にも協力体制を整備した。</p> <p>(越谷) 新型コロナ感染症対策のため、毎朝受付開始より外来患</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>22) 地域と国際社会に開かれた医療機関として社会に貢献する。</p>	<p>47) 国民の幅広い医療ニーズに対応し、地域医療の推進と連携体制を強化する。</p>	<p>者向けの出入口の制限及びトリアージ・発熱者専用の臨時診察室の設置・手摺等の定期的な消毒を継続している。外来においては、オンライン診療料に係る届出を行い、対面診察の他、電話再診、オンライン診療による外来診療を実施した。入院患者には、全例 PCR 検査の実施と個室管理を徹底し院内クラスターを含む感染者予防に効果をあげている。メンタルクリニック外来の患者を対象に、コロナ禍における患者の不安心理に関して大規模なアンケート調査を実施し、その結果を今後の診療に反映する予定。埼玉県や越谷市等からの発熱者 PCR 検査の医師等派遣要請に対し、適宜迅速に対応し、行政や地域医師会との連携強化を図った。新型コロナ禍における「ストレス反応」という市民向け動画を病院ホームページで配信した。</p> <p>(高齢者) 病院各トイレに設置しているエアーハンドタオルを使い捨てタオルに変更し、手指消毒ディスペンサーを各病棟・外来に設置した。来訪者の出入り口を一ヶ所として検温システムを設置して、職員によるマスク着用、検温及び手指消毒チェックを行っている。面会は、原則禁止だが時間限定で iPad による面会ができる環境を整えた。</p> <p>(練馬) 令和元年度に引き続き新型コロナウイルス感染症に対して、発熱外来を設置し、保健所からの要請に応える形で診療を行った。再編事業での病床の拡大に合わせ、入院重点医療機関として登録し、病床も最大限活用して入院治療を行った。検査機器、感染対策備品等も拡充し、オンライン診療の実施や iPad 利用による面会、給排気の整備を含め感染対策に注意しながら、診療を継続している。</p> <p>(医院) 「医療連携を共に考える会」等、従前よりおこなっていた会場集合型の会を改め、感染状況に応じて対面と Web によるハイブリッド式又は Web 開催で行う等、連携の継続を図った。</p> <p>(静岡) 地域医療支援病院承認に伴い、近隣医師会と連携。年 1 回「医療連携だより」を発刊した。</p> <p>(浦安) 地域医療支援病院の指定と継続的な運営。地域連携フォーラムの開催、連携だよりの発行による情報発信。</p> <p>(越谷) 埼玉県や越谷市等からの発熱者 PCR 検査の医師派遣要請に対し、適宜迅速に対応し、行政や地域医師会との連携強化を図っている。</p> <p>(高齢者) コロナ禍で毎年恒例の医療連携フォーラム等が中止となり各医療機関へは医師会を通して病院紹介パンフレットの配布行うとともに Web での動画配信を行った。区民の皆さんへは</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>23) 質の高い安全で安心な医療体制及びICT化を更に強化する。</p>	<p>48) 患者満足度向上のために、療養環境の改善や広報活動による患者サービスの強化を図る。</p>	<p>区民健康講座が開催できないためホームページからの動画配信を行った。</p> <p>(練馬) 地域医療推進と患者サービス並びにチーム医療推進のため「医療サービス支援センター（入院支援センター、患者相談室等）」の組織を改編し、周術期管理の歯科診療を含め、医療サービス支援を進める基盤作りを行った。社会との連携に、市民公開講座・各種がん支援講演等、リモート環境を追加し実施した。</p> <p>(医院) あと払いクレジットサービスや薬剤配送サービスを連動させて会計窓口や薬受取窓口の混雑緩和を図っている。ウォークスルー検査の導入等により待ち時間の解消に努めている。</p> <p>(静岡) 市民公開講座はミニレクチャーとしてWeb開催とし、年4回広報誌「J's」を発刊。オンライン面会、ホームページ上で外来診察の予約日変更、電話等による診療及び処方箋の発行を、新規に開始した。ハローワークと合同で毎月、がん患者に対する就労相談会を実施した。</p> <p>(浦安) ホームページ、病院ニュース、市民公開講座等の広報活動の充実。待ち時間対策の推進。コンビニ・レストラン等、院内整備計画の推進。</p> <p>(越谷) 患者満足度向上のために広報活動として、病院ホームページにメンタルクリニックと脳神経内科において、疾患の心理教育のツールとして動画を配信している。さらに妊娠・出産の精神科患者への専門的対応ができること及び新型コロナ禍における「ストレス対応」という市民向け動画を病院ホームページ掲載しサービス向上に努めている。</p> <p>(高齢者) 開院より19年経過したため療養環境の整備として空調機及び電動ベッドの更新を行った。電動ベッドについては中長期計画に入れ、毎年数十台の更新を行っていくこととした。広報活動として郵便局に病院のパンフレットを設置した。</p> <p>(練馬) ホームページを全面的にリニューアルし、各診療科・部門の情報発信を努めている。</p>
<p>24) 全人的医療を行う優れた医療人育成のための教育を充実する。</p>	<p>49) 災害時における初期救急医療体制の充実を図り、災害拠点病院としての機能強化を図る。</p>	<p>(医院) コロナ禍のため集合訓練は実施せず、警備課監修のもと各部署ごとで訓練を実施した。</p> <p>(浦安) 救急ホットライン、ラピッドレスポンスカーの活用等、救急体制の継続維持。災害訓練の継続実施とBCMの継続。</p> <p>(高齢者) 災害に備えてDMAT隊を主とするトリアージ訓練を行った。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>25) 大学病院の運営体制を整備・強化し、健全な運営基盤を確立する。</p>	<p>50) 患者の心身両面に配慮した医療を的確に提供できる「チーム医療」を推進する。</p> <p>51) 国際社会に開かれた医療連携の促進を図るため、病院広報の国際化及び外国人患者診療受入体制の整備を推進するとともに、医療・医学教育・医学研究に関して諸外国と連携して人材交流を進める。</p> <p>52) 臨床研究支援体制の整備拡充を図り、治験実施件数のアップを図る。</p> <p>53) P D C A サイクルにより実習体制の整備、質の高い研修プログラムを整備拡充するとともに、地域医療機関との連携を強化し、卒前・卒後の一貫した教育・研修体制を充実させる。</p> <p>54) 初期臨床研修プログラム及び研修環境を改善し、専門医制度改革に伴う専攻医の育成において大学病院としての機能を果たす。</p>	<p>(医院) 患者サービス支援センターを中心に、医師、看護師、薬剤師、事務員により入院支援センター及び術前外来の充実を図り、入院患者に対するサポートの充実を図っている。</p> <p>(静岡) 精神科リエゾンチームを発足させ、抑うつ若しくはせん妄を有する患者、精神疾患を有する患者又は自殺企図により入院した患者への診療を開始した。</p> <p>(浦安) 患者支援センターの充実。N S T、緩和ケア、褥瘡、R S T等、多職種によるチーム医療の推進。クリニカルパスの使用率向上。</p> <p>(高齢者) 入退院支援チームとして患者・看護相談室と医療福祉相談室が活動した。</p> <p>(練馬) 専門看護師資格取得のため、費用の補助及び勤務体制の支援を行った。</p> <p>(医院) 海外からの新たな患者の獲得は難しい状況であるため、在留外国人の積極的な受け入れとともに、院内印刷物やホームページの多言語化を進め受け入れ態勢を整えている。</p> <p>(浦安) 多言語対応の強化。</p> <p>(医院) 院内主要会議において実施状況を逐次報告し、啓蒙を行っている。</p> <p>(静岡) ホームページ上で治験実施状況を公開した。</p> <p>(浦安) 外部資金の確保(科学研究費、共同研究講座、寄付講座等)。治験件数のアップ。特定臨床研究の件数アップ。</p> <p>(医院) 院長、副院長、臨床研修センター長と各診療科の科長及び研修教育担当者が面談を行い、研修医教育充実のための方策について意見交換を行っている。</p> <p>(静岡) 初期研修医から研修プログラムの改善点をヒアリングし、教育及びQ O Lへと反映させた。初期研修医への定期的な進路面談によりニーズを把握し、専門医プログラムへの反映・拡充を行った。</p> <p>(浦安) シミュレーションセンター設置計画の推進。実習プログラムの充実と受入れ強化。</p> <p>(医院) 基本的臨床能力評価試験(GM-I T E)を導入し客観的評価に基づいて研修環境の整備を実施する。</p> <p>(浦安) 臨床研修医の確保(マッチ率100%)に向けた取り組みの充実。専門医教育の充実。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>55) 健全な経営基盤を確立するために、病院事業に必要な収入を確保し、適切な支出管理を行う。</p> <p>56) 先端医療・臨床研究の安全性・品質を担保するため、倫理教育プログラムの充実、研究支援・モニタリング体制の整備等組織としての管理体制を一層強化するとともに、医療の質の向上のため、医療安全体制を強化し、定期的に第三者の機能評価（日本医療機能評価機構）の受審・認定を受け、更に質の高い医療の提供に努める。</p> <p>57) 社会・地域の要請に応え、医療従事者の生涯教育を行い、高度な知識・技能・人格を兼ね備えた優れた専門医療人の育成に取り組む。</p>	<p>(練馬) 医療人育成のため、感染拡大禍であったが、研修医向けセミナーを実施した。</p> <p>(医院) 各種委員会にて収支の月次の収支チェックを実施しているが、システムを有効に利用した包括的な資料の作成を検討している。</p> <p>(静岡) 当初予算を基に、月次で予算執行状況を把握し予算管理。あわせて、取引業者の選定や価格交渉、廉価品への変更による経費削減を実施。診療報酬請求を適切に実施し、算定拡大に向けた取り組みを各種委員会で実施。</p> <p>(浦安) 病床利用率 95% 目標、適正な保険診療（コーディング）の実施。機械材料委員会による審査継続。施設、設備、機器の有効利用の推進。</p> <p>(越谷) 毎月の収支予算執行状況について、予算残高表を作成し管理している。各種会議にて、毎月の稼働状況を報告し適切な保険診療の実施及び経費等の使用について啓蒙をした。</p> <p>(高齢者) 新型コロナ感染症禍、収入減少に伴い大型設備投資を控え収支バランスを維持した。教職員へコスト意識の啓蒙を図った。</p> <p>(練馬) 新型コロナワクチンに関する事業補助金について精緻し、申請額と同等の補助が得られた。上記補助金(感染対策関連の機器・設備)を精緻し、院内の感染対策を増強した。</p> <p>(医院) 平成 31(2019)年 3 月に病院機能評価を受審。令和 4(2022)年 1 月の J C I の受審を予定している。</p> <p>(静岡) 日本医療機能評価機構による病院機能評価受審後 3 年目の「期中の確認」を実施、報告を行った。</p> <p>(浦安) 病院機能評価期中確認の提出と実行（令和 3(2021)年 4 月）。先進的医療の実施と事前審査の適正化。</p> <p>(医学研究科) 放射線技師、臨床検査技師等の医療従事者を大学院医学研究科に社会人大学院生として受け入れ、研究指導等を通じた生涯教育を実施し、高度専門職業人・医学研究者の育成を行っている。</p> <p>(静岡) 医療従事者の教育体制として、各専門分野で講習会等を実施した。</p>

IV 社会貢献

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>IV 社会との連携や社会貢献に関する目標</p> <p>26) 世界的研究・教育拠点として、国際社会・国・地域の発展に貢献するための幅広い連携活動を展開する。</p>	<p>IV 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための計画</p> <p>58) 大学の様々な資源・機能を活用して、国内外の大学間連携、産学官連携及び自治体等との連携による各種プロジェクトや公開講座、各種セミナー等を積極的に実施し、研究成果を社会に還元にする。</p>	<p>IV 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(大学)</p> <p>1. 大学間連携、産学官連携及び自治体等との連携</p> <p>(1) 自治体等と組織的な連携体制を構築し、教育の振興、健康支援等、地域社会に寄与することを目的とした取り組みを継続している。当期は、「東京都と大学との共同事業」の採択を受け、帝京大学及び聖心女子大学と連携し、都の掲げるビジョン及びSDGsの目標を価値基準とした共同事業を実施した。本事業は、社会的ニーズも高く、東京都事業終了後も全国的な広がりをみせ、現在も継続している。</p> <p>事業名：医療者への「やさしい日本語」普及に役立つe-ラーニング教材開発とワークショップ開催</p> <p>(2) 「健康・体力増進事業（児童の体力向上推進事業・がん教育）」として文京区との連携を強化した。本学教員が大学の知的資源を還元している。</p> <p>①体力向上事業【データ分析、体力向上推進プランへの指導・助言、訪問指導（区内20の小学校への教員派遣）、体力向上イベントの実施】</p> <p>②がん教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業公開（小中学校に教員を派遣し、がん教育の授業を実施） <p>2. 自治体等との連携による研究成果の還元</p> <p>(1) 教育や研究の成果を広く社会に還元・共有する取組を行うため、健康の増進を目的として東京都、東京都医師会の後援をうけ、一般の方々が多く関心を寄せる様々な疾患・病態等をテーマに、本学の教職員がわかりやすく解説をする都民公開講座を開催した。</p> <p>〈第46回都民公開講座：「人生100年時代を元気で生き抜くために～健康長寿を目指して～」〉（Zoom使用ライブ配信）</p> <p>(スポーツ健康) スポーツ健康科学部が有する人的・物的資源を生かし、地域のニーズ等を把握しつつ、公開講座の開催や各自治体等への講師派遣を積極的に実施した。</p> <p>(医療看護) 米国・英国・タイの各国と協定を締結しており、令和2年度はオンラインによる国際看護シンポジウムを開催した。自治体との連携により公開講座を実施している。</p> <p>(保健看護) 公開講座は年に数回に開催し、三島市が主催する健</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>27) 地域の持続的な発展と豊かな社会の実現のために学内資源を活用した社会貢献と地域連携を推進する。</p> <p>28) 高大接続の取り組みを推進し、生徒が大学の高度な教育・研究にふれる機会を拡大することにより、将来を担う世代の育成を行う。</p>	<p>59) 地域社会との連携活動を全学的に推進するために、関係機関との持続的な連携・協働体制を構築し、社会連携推進室及び各地区分室の機能並びに広報体制を強化する。</p> <p>60) 高大接続の取り組みを推進するために、教育についての情報交換及び交流による双方の教育の質向上を図る。</p>	<p>康増進を目的とした「みしま教養セミナー」についても、毎年依頼を受け教員を講師として派遣している。</p> <p>(国際教養) 難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に向けた取り組みを行う国連機関の一つ「UNHCR」と大学パートナーズとして提携し、コロナ禍であるためオンラインでの難民映画上映会、異文化コミュニケーション領域教員のトークセッションを公開講座として開催した。</p> <p>(保健医療) 理学療法、診療放射線における研究成果を積極的に社会に還元するため、市民公開講座を実施している。</p> <p>(大学) 地域自治体や企業、医療機関、その他団体と提携を結び、地と知の永続的な共生と発展のための様々な取組を展開しており、その内容は、広報誌「順天堂だより」やソーシャルメディアを通して広報している。特に本学ホームページにおいて、迅速に情報公開を実施した。</p> <p>(スポーツ健康) 高大接続の一環として高等学校等で実施される出張模擬授業等に積極的に参加し、高等学校との交流を深めた。</p> <p>(医療看護) 従来より高大接続プログラムを実施している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、高大接続プログラムは実施していないが、オンラインを活用する等により高校説明会を実施した。</p> <p>(保健看護) 県内高等学校への出張授業により本学部教育の理解を深めること、高校生の大学見学等から学生及び教職員との交流の門戸を広げている。</p> <p>(国際教養) 教職課程履修者の教育実習を高大接続提携校で行い、高校側生徒と本学部学生の双方の教育の質の向上を図っている。</p>

V 国際

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>V 国際化に関する目標</p> <p>29) 世界的研究・教育拠点として、研究・教育の国際化の一層の推進を図る。</p>	<p>V 国際化に関する目標を達成するための計画</p> <p>61) 国際的な視野を持って世界で活躍できる人材を育成するために、海外の大学との交流協定を活用し、国際プロジェクト・プログラムや現地体験型学習に学生を派遣し、積極的な参画を推進する。</p>	<p>V 国際化に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(大学) 新型コロナウイルス感染症禍における学生の海外派遣事業としてオンライン留学の可能性を検討している。その試行プログラムとして医学部の英語授業の一部をジョンズ・ホプキンス大学の教員が行った。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>30) 世界的研究・教育拠点にふさわしい国際交流を展開するとともに、外国人留学生の戦略的受入と質の高い学生交流を促進し、多文化の理解とコミュニケーション能力の強化を図る。</p> <p>31) 世界的研究・教育拠点にふさわしい研究・教育環境の整備と国際的な産学官連携や研究協力支援を推進し、国際社会との連携強化を図る。</p>	<p>62) 国際社会で活躍する人材育成を目指し、学部生及び大学院生の海外の大学への派遣数を増加させる。</p> <p>63) 教育の国際化を推進するために、英語による教育課程など海外の学生にとって魅力あるプログラムを整備・充実する。</p>	<p>(医) 医学部 5 年次の臨床実習（選択実習）、6 年次の学生インターンシップ実習において、学生の海外研修を推奨している。</p> <p>(スポーツ健康) 交流協定を締結している海外の大学を中心に学生の派遣事業を実施している。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため学生交流は行っていない。</p> <p>(医療看護) 交流協定を締結している海外の大学を中心に学生の派遣事業を実施している。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため学生交流は行っていない。</p> <p>(保健看護) 令和 2(2020)年 10 月にユヴァスキュラ応用科学大学と MOU を締結し、オンラインでの共同授業を実施している。</p> <p>(国際教養) コロナ禍であるためシンガポール国立大学学生の短期受入が実現できず、代わりに、オンライン国際交流としてシンガポール国立大学日本語クラスに本学学生が参加し、合同発表会を行った。協定を締結している大連理工大学（中国）へ、半年間のオンライン留学に学生が取り組んでいる。</p> <p>(保健医療) 保健医療学部の国際化を推進し、国際通用性のある人材を育成するため、国際化ワーキンググループを立ち上げ、学生及び教員の交流について具体的な検討を開始した。</p> <p>(医) 医学部、大学院医学研究科においては、海外研修を推奨し、海外での研修実績に応じた単位認定を行っている。</p> <p>(医療看護) 例年、学生の海外派遣を行っているが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため派遣は行っていない。</p> <p>(保健看護) コロナ禍にあってはオンラインで海外の学部と交流を図り、将来的な短期研修生の受け入れ準備のため、環境整備を進めている。</p> <p>(国際教養) 学生本人、留学支援団体、大学との連絡を密に管理体制を強化している。</p> <p>(大学) 大学ランキングの国際性指標に「外国語で行われている講座の比率」があり 10%程度が目標とする一つの目安となっている（本学は 0.4%）。本学のシラバスを精査しこの目標の達成の可能性について検討を開始した。</p> <p>(医) 大学院医学研究科において、シラバスの英文併記を実施している。英語による授業については検討中である。</p> <p>(医療看護) 大学院医療看護学研究科にバイリンガルコースの開設を計画している。</p> <p>(保健看護) ユヴァスキュラ応用科学大学と Gerontechnology の分野で継続的に情報交換を行っている。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>64) 留学生向けプログラム及び受入体制の整備・拡充を通じて、外国人留学生の受入数を増加させる。</p> <p>65) 教育の国際化を担う優秀な外国人教員や海外で学位を取得した日本人教員の受入数を増加することで、カリキュラムや教育内容の国際化を推進する。また、外国人医学生を受け入れ、本邦の医師国家試験合格者を養成するとともに、本学での臨床研修、大学院進学と専門医資格と学位（博士）取得者の増加を目指す。</p> <p>66) 国際通用性を涵養するためECFMG、LCME、GMC等欧米の国際的に通用する医師申請資格取得のための教育を強</p>	<p>(大学) 国際教養学部の留学生向けプログラムとして「日本語・日本文化研修プログラム」の開設を国際教養学部と共同で企画し令和3年度中の実施を予定している。</p> <p>(医) 医学部においては外国人選抜、大学院医学研究科においては外国人留学生入試、外国在住外国人留学生入試（渡日前入学許可制度）を実施し、外国人留学生の受け入れを推進している。令和2年度には履修証明プログラム（国際医療人養成プログラム）を実施し、外国の医師免許を持つ医師に対して、日本の医師養成のための医学教育を施し、日本の医師免許取得に必要な知識を習得させ、国際的な視野を有する医療人の育成を行っている。</p> <p>(医療看護) 例年、海外協定校から短期研修生を受け入れているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため学生交流は行っていない。大学院医療看護学研究科にバイリンガルコースの開設を計画している。</p> <p>(国際教養) 令和3年度入学者選抜試験において、総合型選抜方式の中で「外国人選抜」を実施し、外国人留学生の受け入れを推進している。同選抜を2回実施することにより留学生の受験機会を増やし受入数の増加を図っている。</p> <p>(大学) 令和2年度は、外国の医学部を卒業し日本の医師免許を取得した医師4名が初期臨床研修医として本学に入職した。北京大学との交流という観点のみでなく、長期的な本学教員の国際化戦略にも適うとして、新型コロナウイルス感染症の影響により中国へ渡航できなくなった北京大学の日本人医学部生15名を受け入れた。これらの学生は北京大学を卒業後に日本の医師免許を取得する予定であり、将来は本学の教員となる可能性がある者である。</p> <p>(医) 国際臨床医・研究医選抜（外国人選抜）において、外国人医学生を受け入れ、卒業後は本学医学部附属病院群で臨床実習を行うことを推奨している。</p> <p>(医療看護) 語学系科目や国際保健等の科目を配置し、国際性の涵養を図っている。</p> <p>(国際教養) 令和2(2020)年度、新たに外国人教員を教授（英語）として採用し、学生の英語力向上、TOEFLスコアアップに向けた学生教育の充実を図った。</p> <p>(医) 順天堂国際医学教育塾にて、USMLEコース、TOEFL iBT・IELTS 対策コース、Clinical Skills Workshopを実施し、国際</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
	<p>化するとともに外国人患者受入のアクセスを高め、急増するインバウンドニーズへ対応するためのシステム構築を図る。</p> <p>67) 外国人留学生の受入れ及び外国人教員・研究者との交流を促進するため、専任スタッフ及び専任教員を拡充し、国際交流センター機能の強化を図る。</p> <p>68) 諸外国との共同研究や国際交流を推進し、我が国の科学技術イノベーションの創出を推進するとともに、我が国の科学技術交流の推進に貢献する。</p>	<p>通用性の涵養を図っている。塾の各コースは、本学医学部学生、大学院生、臨床研修医、若手医師等、身分を問わず参加することができる。急増するインバウンドニーズへ対応の一環として、令和3年度から医学研究科修士課程にヘルスコミュニケーションコースを設置し、認定医療通訳者を育成する予定である。</p> <p>(大学) 専任スタッフ及び専任教員については各学部から拡充を図り、各学部との連携のハブとして国際交流センター機能の強化を達成する。長期的な人材育成に係る課題として引き続き検討している。</p> <p>(大学) オンラインによる協定校との学術シンポジウムを14回開催した。この中から将来の科学技術の発展に寄与する課題を探索している。</p> <p>(医療看護) 米国・英国・タイの各国と協定を締結しており、令和2年度はオンラインによる国際看護シンポジウムを開催した。</p>

VI 運営

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>VI-1 組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標</p> <p>(1) 組織運営の改善に関する目標</p> <p>32) 世界的研究・教育拠点としての諸活動を支える基盤となる組織運営体制を強化するとともに、効果的な大学運営を推進する。</p> <p>33) 世界的研究・教育拠点としての諸活動を促進するために、優れた人材の確保と教職員の資質の向上を図る。</p>	<p>VI-1 組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための計画</p> <p>(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための計画</p> <p>69) 学長のリーダーシップの下、法人部門と各地区部門との連携機能を強化し、各地区における将来構想実現を促進するために全学的な教学マネジメント体制の強化を図る。</p> <p>70) 教員業績評価制度及び事務系職員業績等評価制度の改善・整備を継続的に行うとともに、公正・公平な評価の実施と評価結果の活用を図る。</p>	<p>VI-1 組織運営の改善及び事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(大学) 教学マネジメント指針(2020年)の制定にともない、学長のリーダーシップの下、学位プログラム毎に教学マネジメント体制の確立が求められた。指針により「大学全体」レベルでの取り組みが必須のため、「大学評価支援室」「アドミッションセンター」を整備し、情報戦略・IR推進室と連携した教学マネジメント確立に向けた取り組みを開始した。</p> <p>(医) 教員業績評価は昇任時及び任期更新時に実施しているが、今後は主に基礎医学の非医師を対象とした教員業績評価制度の導入準備を行っている。</p> <p>(医療看護) 教員の業績評価は、昇任時及び任期更新時に行っている。</p> <p>(保健看護) 教員業績評価制度及び事務系職員業績等評価制度の</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>(2) 事務等の効率化・合理化に関する目標</p> <p>34) 大学経営を担うマネジメント人材の育成を推進するとともに、業務処理の簡素化・統一化、ICTの活用により、事務の効率化・合理化・標準化を一層推進する。</p> <p>VI-2 外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標</p> <p>35) 研究力強化のために、文部科学省科学研究費補助金をはじめ共同研究講座・寄付講座等の外部資金による研究費の増額を図る。</p> <p>36) 無駄な経費を抑制し、一層のコスト意識の徹底を図る。</p>	<p>(2) 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための計画</p> <p>71) 優れた人材確保のために、人事制度改革を検討するとともに、全教職員が働きやすい魅力ある職場環境づくりに向けた働き方改革を推進し、組織運営の改善に資する知識・能力を向上させるための研修プログラムを開発し、実施する。</p> <p>72) 業務を継続的に見直し、共通業務の一括処理（処理方法の統一化）、効果的な外部委託、事務のIT化、契約業務の適正化を推進する。 また、事務職員に高い専門性を維持しつつ広い視野を持たせるため、国際通用性を涵養するための語学における資質向上を図るとともに、他大学との共同SD研修を通し、共通課題を検証し、問題に即応した課題解決を通じてコミュニケーション能力やマネジメント能力の高度化を図るPBL型研修の拡充を通じた人材育成を行うなど、事務職員の資質向上を図る。</p> <p>VI-2 外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標を達成するための計画</p> <p>73) 外部資金等の獲得に向けた取組を強化するため、研究戦略推進センター研究戦略室を中心として、文部科学省科学研究費、AMEDの事業採択に向けて研究者の支援の強化を図る。企業等からの共同研究講座・寄付講座の拡充を図るために、異分野連携共同研究や開発型の大型共同研究の促進を目指す。また異分野連携推進のためのシーズを取りまとめ発信するICT環境を整備し、活用を促す。</p> <p>74) 外部資金の獲得について公募情報の積極的な提供及び採択に向けての研究者支援体制を強化する。</p>	<p>改善・整備を継続的に行うとともに、公正・公平な評価の実施と評価結果を活用している。 (国際教養) 教員業績評価を任期更新時に実施しており、「教員在任期間における教育・研究活動等報告書」を整備し、更新審査時で活用した。</p> <p>(2) 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(保健看護) 優れた人材確保のために、IT化による業務の効率化に加え、全教職員が働きやすい魅力ある職場環境づくりに向けた働き方改革を推進している。職員については組織運営の改善に資する知識・能力を向上させるため、通信教育プログラムの受講を推奨している。</p> <p>(医) 学部・研究科の学務・学生支援業務は多岐にわたるため、事務職員の資質向上を図るべく、定期的に課内ジョブローテーションを実施している。 (医療看護) 職員の業務について継続的に見直しを行っている。令和2年度はGAKUENシステムの講習会を実施する等事務のIT化を推進したほか、新規プリンタの導入による業務効率化を行った。</p> <p>VI-2 外部研究資金、寄付金その他の自己収入の増加に関する目標（財務体質の強化に関する目標）コスト意識の徹底及び資産の効率的運用に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(大学) 外部資金獲得に向け、研究者と支援部門が連携して取り組んだ結果、寄付講座・共同研究講座数は2020(令和2)年度末時点で、50講座（寄付講座18講座、共同研究講座32講座）が設置され、前年度末の37講座より13講座増加した。科研費についても616件 1,161,956千円と前年度より増加した。 (保健看護) 外部資金（科学研究費等）を得るために全教員が毎年応募している。</p> <p>(大学) 研究者向けの学内広報（主にメール配信）により公募情報の積極的な提供に取り組んだ。申請の際にURAによる申請書のレビュー対応を強化した。</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>37) 運用資金を含めた資産の効率的な運用及び管理体制の強化を図る。</p>	<p>75) 大型の競争的資金を積極的に申請するとともに、研究費管理システムのバージョンアップ等管理の強化に努める。</p> <p>76) 一層の情報公開を進めることによりコスト意識を高め、財務体質の強化、外部格付（R&I「AA」）の維持・向上に努める。また研究基盤センターの管理運営体制の見直し及び研究経費の効率的運用を図るとともに、施設・設備の更なる共同利用を推進し、より一層の効率化を実現する。</p> <p>77) 資金運用委員会の検討等を踏まえて運用資金を含めた資産の効率的な運用を進める。</p>	<p>(大学) 研究者が大型競争的資金に挑戦しやすい環境を整えるため、大型研究資金を目指す研究者向けのプロジェクト研究費を配分した。増加傾向にある研究費処理を円滑に行うため、改修によりシステムの応答速度の向上させた</p> <p>(法人) 決算状況についてはホームページに公開しているほか、学内に対しても大学運営連絡協議会や各学部教授会において財務状況報告を行う等、情報公開を積極的に進め、コスト意識を高めた。外部格付（R&I）を令和2年8月に更新し「AA」を維持、引き続き「安定的」との評価を得た。</p> <p>(法人) 半期ごとに資金運用委員会を開催、運用資産のモニタリングを通じて効率的な運用を検証したほか、国際経済を専門とする外部委員から内外の金融・経済情勢のレクチャーを受けて銘柄選定の参考とする等、資産の質の維持を図った。</p>
<p>VI-3 評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標</p> <p>38) 自己点検・評価及び第三者評価機関等による評価を実施するとともに、その評価結果に基づき、内部質保証システムにより教育研究活動・大学運営の改善に資する仕組の強化を図る。</p>	<p>VI-3 評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための計画</p> <p>78) 自己点検・評価を通じて把握した課題に係るフォローアップを行うなど、内部質保証システムの機能を高め、着実な教育研究活動・大学運営の改善を効果的に推進する。教育の内部質保証にあっては、教育の状況・活動の実態を示すデータを適切に収集・分析して教育現場にフィードバックする教学IR体制の整備を図る。</p>	<p>VI-3 評価の充実に関する目標及び情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(大学) 内部質保証の機能を高めるため、『内部質保証に関する規程』等を制定し、学長の下に、大学全体として内部質保証の推進に責任を負う組織として「内部質保証推進委員会」を整備した。第13次(平成30年度)自己点検・評価を通じて把握した課題は、令和元年度中に各部署で対応したことを同委員会にて検証を行った。課題は概ね改善されたことを確認している。第14次(令和元年度)自己点検・評価を行い、課題を把握しており、令和3年度に令和2年度中に対応したことを検証する。教学IRは、学修成果把握・可視化に関連してDPと卒業時コンピテンシーの設定、コンピテンシー獲得レベルの明示等について、同委員会委員長を中心に各学部の進捗状況を確認している。</p> <p>(医) 自己点検・評価を通じて把握した課題に係るフォローアップ項目については教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会が中心となって改善を図っている。</p> <p>(医療看護) 自己点検・評価を通じて把握した課題に係るフォローアップを行っている。教務委員会、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会が中心となり、教育の状況・活動の実態を示すデータを適切に収集・分析して教育現場にフィードバックしている。</p> <p>(保健看護) 自己点検・評価を通じて把握した課題を情報共有</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>39) 世界的研究・教育拠点としての順天堂大学における教育・研究・診療に関する取組や国内外の他大学との連携交流に関する諸活動を情報公開し、積極的に国内外に情報発信する。</p>	<p>79) 大学の教育・研究・診療活動の状況を恒常的かつ継続的に国内外に発信するために、学内外の情報収集や発信等を効果的に遂行する体制や手法を強化し、マスコミ等に対するプレスリリースを拡充する。</p> <p>80) 順天堂ブランドとなる教育・研究・診療活動を可視化し、大学ブランドイメージの発信及び支援層の拡大を目指す。正確かつ迅速な情報発信にとどまらず、他大学にはない個性や魅力に満ちた諸活動を Web サイトなどの様々な広報媒体により国内外に紹介するとともに、外部の多様なメディアなど社会とのネットワークを最大限活用し、情報の浸透・拡散を促進する。</p>	<p>し、その成果については検証を行い、各委員会活動において教育研究活動・大学運営の改善に向けた対応を検討している。</p> <p>(医療看護) 広報委員会及び情報ネットワーク管理室が中心となって学内外の情報収集や発信等を行っており、その方法についても検討を行っている。</p> <p>(医) パンフレットや Web サイト等により医学部、大学院医学研究科に関する様々な情報発信を行っている。</p> <p>(医療看護) パンフレットや Web サイト等により情報発信を行っている。Web サイトには、受験生応援サイトや学生通信を掲載しており、本学部の特色を様々な形で発信している。令和 2 年度には Web オープンキャンパスを実施した。</p> <p>(国際教養) 学部 Web サイト、学部公式 SNS により、受験情報の他、教員・学生の活動・取組等の様々な情報を発信している。令和 2 年度は、コロナ禍でも本学部が活発に教育活動を実施していることをアピールする動画も掲載した。</p>
<p>VI-4 施設設備の整備・活用等に関する目標</p> <p>40) 世界的研究・教育・診療拠点にふさわしいキャンパス・附属病院の環境を計画的に整備する。</p> <p>41) 地球温暖化等の環境に配慮した取組を進めるとともに、施設設備の適切な維持管理と有効活用を推進する。</p>	<p>VI-4 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための計画</p> <p>81) 大学キャンパス・ホスピタル再編事業を踏まえ、各キャンパス機能の再整備と推進を図り、教育研究環境の改善・強化を推進する。</p> <p>82) 医療の質の向上及び安心で安全な医療の提供を推進するため附属病院の施設設備の充実を図る。</p>	<p>VI-4 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための実施状況</p> <p>(大学) 新研究棟 (A 棟) が令和 2 年 9 月竣工し、研究環境の整備を推進した。医療の質及び安全な医療環境提供のため、順天堂医院手術室関連の環境改善改修工事に着手 (5 か年計画)。大学地区は新型コロナウイルス感染症対応として窓開け換気等、換気量確保のための空調負荷が増加傾向にあり、空調の強制停止等、快適性とのバランスをみての更なる運用改善を検討している。</p> <p>(医療看護) 令和 4 年度の定員増計画を踏まえ、教育研究環境の改善・強化を検討している。</p> <p>(国際教養) 定員増対応のため「第 3 教育棟」が新築され、バリアフリー対応の大教室 2 室 (各 252 名、270 名収容) の他、機能性を重視した 84 名収容の中教室 4 室 (連結により 168 名収容・2 室)、30 名収容の演習室 8 室 (連結により 60 名収容・4 室) が整備された。</p> <p>(静岡) 令和 3 年 3 月末時点で、H 棟 I 期工事の進捗率は 85.6%、全体工事の 48.0% に到達し、令和 3 年 6 月 30 日の竣工引渡しに向けて工事を進めている。新棟は免震構造で屋上に</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>VI-5 法令遵守に関する目標</p>	<p>83) エネルギーの効率的な利用と省資源化を強化する。</p> <p>84) 施設設備を適切に維持管理し、効率的に運用する。</p> <p>85) 万一の大規模災害時に備えるため、事業継続計画（BCP）に則り、施設設備の整備を推進する。</p> <p>VI-5 法令遵守に関する目標を達成するための計画</p>	<p>非常用発電機を備え、震災に対してより強固な病院となる。H棟が完成すると静岡病院全体の床面積が約1.4倍に増加し、次の医療器械を整備する予定である。①カテーテル室：アンギオ装置更新、シネアンギオ装置追加、シネアンギオ装置を2台体制から3台体制に。②TV室：X線TV透視装置更新、③手術室：ハイブリッドオペ室対応血管造影X線診断装置新設、④救急外来：CT追加予定。</p> <p>(浦安) 令和2年4月1日より、中央手術室を12室から14室へ増室。年間8,500件を超える手術と泌尿器科、消化器・一般外科、産婦人科においては、手術支援ロボット（ダヴィンチ）手術の導入を行っている。令和2年11月に救命救急センター病棟の個室を陰圧室に改修する工事を行った。今回の工事で陰圧室は5室となり、新型コロナウイルス感染症だけでなく、空気感染を起こす多様な感染症疾患にも対応可能となった。</p> <p>(練馬) 1号館の改修工事を実施しており、令和3年3月末までに2～7階の病棟工事が完了し、400床から490床に増床した。改修工事は次の通りです。①90床の病床を増設・救急外来の拡張と感染対応陰圧室の増設、ICUの拡張、②小児周産期センター（NICU/GCU）、新生児科の新設、産科病棟の整備・無菌室の新設、③手術室の増室（davinch対応手術室）、④放射線画像センターの拡張。</p> <p>(医療看護) シラバスの電子化や照明のLED化等により省資源化を推進している。</p> <p>(大学) 設備の適切な維持管理とエネルギーの効率的な運用については各キャンパス鋭意改善に努めている。新規の経常的な設備投資については新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施時期を見送っている。</p> <p>(医療看護) 業務委託している日本空調サービス株式会社に維持管理を依頼し効率的に運用している。</p> <p>(大学) 各地区のBCP計画に則り、必要な施設整備、外部との協力協定の締結を進めている。</p> <p>(医療看護) 浦安市職員と年に1回災害時に本キャンパスが避難所となったときの対応について協議している。キャンパス内の自衛消防組織を設置している。</p> <p>VI-5 法令遵守に関する目標を達成するための実施状況</p>

中期目標	中期計画	当期の実施状況
<p>○法令順守に関する目標</p> <p>42) 研究不正及び個人情報漏洩防止を含め法令遵守に係る取組を強化するとともに、情報セキュリティ対策に取り組む。</p>	<p>○法令順守に関する計画</p> <p>86) 各部門のコンプライアンス推進部門責任者、副責任者は、研究倫理の推進及び不正行為防止を図るため、部門内の研究活動及び研究費の運営・管理に関わる教職員等に対してコンプライアンス教育の実施、受講状況の管理監督を行い、統括管理責任者に報告する。</p> <p>87) 法令順守のための助言・支援を担当するほか、各種プロジェクト、各種契約における大学の正当な利益を保護するための助言・支援を専門的な見地から担当する法務スタッフの充実・整備を図る。</p> <p>○研究不正に対する防止策に関する計画</p> <p>88) 研究活動に係る不正行為の防止を図るため、研究倫理教育部門責任者は、教職員・学生等に対する公正な研究活動を推進するため、研究倫理の推進に関する定期的な教育（e-Learning 等）、研究分野及び部門等の特性に応じた研究資料等の保存方法の策定及び管理に関する教育、研究者等に対する研究資料等の作成及び保存に関する教育を行う。</p> <p>○情報セキュリティに関する計画</p> <p>89) 情報セキュリティレベルの向上と教職員・学生等の情報に係る法令遵守の意識の向上と徹底を図るために、組織的に運用・管理体制を確立するための体制整備、認証基盤の充実、情報セキュリティ・ポリシーの定期的な見直し、セキュリティ対策、学内構成員に対する講習会等を行う。</p>	<p>○法令順守に関する実施状況</p> <p>(大学) 部門内の研究活動及び研究費の運営・管理に関わる教職員等に対してコンプライアンス教育として APRIN e-learning、JSPS eL CoRE の受講を義務付け、Web 上で受講を確認している。学生に対しては講義の中で研究倫理教育の講義を実施している。受講状況は、文部科学省への報告事項のため最高管理責任者及び統括管理責任者へ報告している。</p> <p>(医学研究科) 医学研究科において研究ガイドラインを策定し、大学院生に配布している。</p> <p>(大学) 令和2年4月より弁護士資格を有する職員を採用し、週3回勤務により、人事・研究支援等の課題を中心に助言を受けている。</p> <p>○研究不正に対する防止策に関する実施状況</p> <p>(医) 順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領に則り、医学部学生、医学研究科大学院生に対して、研究倫理教育の e-learning 受講を課している。医学研究科にて研究ガイドラインを策定し、大学院生に配布している。</p> <p>(医療看護) APRIN e-learning プログラムを導入しており、教職員・学生においては倫理審査申請にあたり事前の受講を必須とする等、研究倫理に関する教育を推進している。</p> <p>(保健看護) 定期的に研究倫理の e-Learning を行うよう、研究等倫理委員会から教員への周知を徹底している。</p> <p>○情報セキュリティに関する実施状況</p> <p>(大学) 本郷・お茶の水キャンパス学部生に対してセキュリティ講習を実施している。セキュリティ対策として標的型攻撃メール訓練実施、サイバー保険加入、各種セキュリティサービス (FW、MDM、DNS セキュリティ、EDR 等) を契約している。セキュリティ管理・リスク評価体制整備 (CSIRT)、教職員へのセキュリティ講習、情報セキュリティ・ポリシーの定期的な見直しを進める。</p>